

多職種連携で1日も早い退院を目指す 3階 回復期リハビリテーション病棟



古川 幸代 看護副部長 兼 師長



(左) 古川看護副部長
(右) 宮下主任

当病棟について

主に脳血管障害や大腿骨骨折などの治療を受けて病状が安定した患者様の在宅復帰や社会復帰のためのリハビリテーションを集中的に行うための病棟です。疾患により90日から150日（高次脳機能障害を伴う場合は180日）と入院期間が定められています。一日も早い退院を目指すため医師・リハビリスタッフ、栄養士、医療ソーシャルワーカーなど多職種との協働が最も重要です。そのつなぎ役となる看護師は24名で、共にケアに当たる介護士は10名、そのほかクラーク1名、看護助手1名の総勢36名が在籍しています。

3階スタッフは多職種の話をよく聞き協力し合える穏やかで優しい人柄の方が多いなと感じています。患者様や家族の意向を丁寧に聞き取り、退院後の生活の目標が実現できるよう多職種で話し合い取り組んでいます。中には重症で思うような回復を望めない方もおられますが、そのような方々には寄り添い、家族の受容を支援することも大切と考え、家族を含めたケアを日々実践しています。

看護副部長・師長としての思い

英国の著名な実業家のロジャー・E・アレンは「マネージャーは、人を変えることはできないが、部下についてよく知ること、話をすること、観察することを通して、部下たちの長所や短所を把握し、彼らが成長しようとする気を起こすような環境を整えることが、すなわち人材育成である」と述べています。これは管理者としてとても大切なことだと感じています。3階病棟だけでなく、看護部全体が成長しようとする意欲が高まるような環境を整えていきたいと思っています。

(古川 幸代看護部副部長兼師長)



多職種での熱い
カンファレンスの様子

2月25日開催「マグニチュード7.9 そのときあなたはどうする？ ～藤沢市南部で災害が起こったら～」災害多職種研修会



若木医師

湘南地域も能登半島地震のような災害がいつ起こっても不思議ではありません。当院の若木美佐医師が発起人となり、地域があらゆる災害に見舞われた場合を想定し、住民の健康を守るため、医療と地域の企業がどのような協力体制を構築できるかを話し合う研修会を2月25日に開催します。藤沢市後援・勇美記念財団の助成を受けています。

藤沢市やウエイズトヨタ株式会社、株式会社タウンニュース社、藤沢市キッチンカー事業者連絡協議会など行政・企業・団体のご協力をいただき、災害時の取り組みやそれぞれの得意分野を知り共有する研修会です。医療介護従事者だけでなく、近隣で働く方やこの地域で生活されている方々など、どなたでもぜひご参加ください。



どなたもご参加
ください

2月25日（日）
10：00～正午
藤沢市役所 5階

お問合せ
0466-22-7111
広報企画課



詳細はこちらから



介護付有料老人ホーム
クローバーガーデン